





特  
4409  
1

林のあふるやうにちとちとておひさのゆる本草の  
花人若友垣のこころをいふに  
こころのこころをいふに  
こころのこころをいふに  
こころのこころをいふに  
こころのこころをいふに  
こころのこころをいふに  
こころのこころをいふに  
こころのこころをいふに  
こころのこころをいふに  
こころのこころをいふに

昭和十一年  
四月二十一日  
購求

昭和十一年  
四月二十一日  
購求



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a single column and is enclosed in a rectangular border. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

序一

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a single column and is enclosed in a rectangular border. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style. A small rectangular box containing the number '11' is located at the bottom left of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style.







Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

附二

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the open book. The text is dense and fills most of the page.



らね〜  
岐の嶺を  
十十  
半  
の強  
ハ  
G  
らね〜  
岐の嶺を  
十十  
半  
の強  
ハ  
G

らね〜  
岐の嶺を  
十十  
半  
の強  
ハ  
G  
らね〜  
岐の嶺を  
十十  
半  
の強  
ハ  
G



文化紀元三月是日、昇之杜多、墨崎の竹向言  
~~~~~  
竹

附三

孫策冊子目錄

第一 歌集

深層 扇風歌七十首

第二 同上

同 春夏秋冬長短合體三百七十余首

二之餘 同上

同 冬雜長短合體三百余首

第三 紀行

秋山記



第四 文集

落葉 十雨言 二篇 花園 卒本

御寮さうじ 初秋 中秋 月の氣

劔の舞 以上十章

第又 同上

水無洲川 邨魚笛鏡 古戰場 融雪 二篇

傲李白春夜宴桃李園序 あり郷 傲錦退之送李

愿帰壘谷序 硯銘 風鈴 枕の硯

雨蛙 旌孝記 以上十一章

第六

目ノ

鶉居 其二 紅梅 嵐山夕曉篇

秋萩 枕の流 三條 よもつ文

附録

露分歌 友野れ處 湖埴尾之巻也 合十章

つらふと目らく終



自序

古人云。文章。所以。後工。非。求。之。能。也。  
此。則。門。戶。之。流。無。事。塵。子。之。之。弱。  
事。務。心。曾。約。吾。言。出。所。存。之。無。親。友。  
斷。絕。世。間。逐。逐。之。事。吾。生。計。以。為。洗。  
無。累。四。向。舍。之。勞。於。日。守。門。元。生。與。此。  
為。仇。欲。之。之。不可。得。之。之。相。此。也。矣。  
之。緣。富。賤。之。勝。貴。以。貴。之。之。緣。於。世。



津。生。語。之。文。錄。於。此。事。不。過。以。此。領  
者。而。心。計。百。子。到。聖。人。物。困。演。而。窮  
厄。作。經。常。變。如。一。樂。之。安。土。又。不  
當。一。你。福。也。這。有。此。以。仰。以。暢。百。性  
焉。頃。一。黃。夢。城。面。垣。髮。之。老。及。本  
云。兄。也。舊。亭。不。遇。去。御。去。解。六。親  
無。屈。世。產。自。德。為。程。福。而。乘。間。作。文  
然。句。以。之。酸。憂。然。世。海。之。久。隆。不

以。此。敬。目。哉。夫。前。人。懷。悅。之。云。者。自。書  
才。辭。文。解。問。者。憤。志。其。兄。也。不。然。在  
此。讀。書。之。感。將。以。安。之。遇。乎。抑。亦。遇  
之。也。其。天。地。之。間。物。人。乘。之。性。不  
可。以。為。少。何。之。家。才。慰。問。之。况。後。且  
之。以。為。失。路。者。之。家。危。則。亦。可。不  
為。之。命。祿。則。以。享。耶。余。之。薄  
命。及。老。而。世。居。無。產。惟。是。五。皆。涉



識く新終日閉門。元生楽筆。報ふ  
勝富勝貴之文。聊以消閒之業  
耳。享和至成。晚春。鴨塘。改之。有  
る。新。常。居士。裁。旨。眼。書。之。

浪速 弁師幸世黄虫



孫美冊子局一

題云藻屑

さみの江れ浦乃はよ藻のよも河へたふらふら  
いもを荷田の信よりれ家の屏風よ、くらふと  
いぬ〜に、いふとあつた。

都也いちめいれ松園の梅よりわらふまよふ、まよふわ  
ち原や春日の神もゆるそねんよれ松、森の〜いよ  
我篇の梅れ花さけり言人れ〜りむと使さん、も  
ねも物と立よ梅よ雪のゆる〜ぬ聲もわらふられ  
よの〜いぬわらふら〜梅の〜いぬわらふら〜いぬ















田上は河のまはるきついでにわらわの波のまはるき  
あかりのうらたの橋をたもとて中津の海はうらた  
うらたのうらたのうらたに積つてをたもとてうらた  
鳳範  
思へもあひかへんをいふきよたれをうらたのうらた  
高部  
あゝこのうらたの家いしうらたのうらたのうらた  
里  
九重のうらたのうらたのうらたのうらたのうらた  
貴人の子

よき人のうらたのうらたのうらたのうらたのうらた  
武士  
そきあひいしうらたのうらたのうらたのうらたのうらた  
倍  
よき人のうらたのうらたのうらたのうらたのうらた  
市買  
あゝこのうらたの家いしうらたのうらたのうらたのうらた  
友人  
あゝこのうらたの家いしうらたのうらたのうらたのうらた  
松







迎春東郊

ひんうーの野よ出てる風はにーこわさを里がけけいんあさ  
田舎位せー可まのあーたよ

のうらうらひひりて世作よふりける菴もふみ来よわ  
春穀よ五穀を盛てくまー

う帯持の神代なつれ田んぼお年の初まらしたの  
元日は日ありー年、巫水の神園は松ひいて  
掬ひー

神祠在本國豊島郡

あーあの新れはーくあーらーき、初子のうーと  
も宿まはあーと新まのりゆる野さーとさー

たさみの神れ、星のへよ、よりてらんかまゆ、あまほ  
新まよ、田鶴つわわ、あさーらよ、國の河よ、あまほ人  
ーもんを、瑞垣の下ゆ、水のちまむと、衣よとむと  
刀自も我も、五十う人れ、百是ぬ、老よーあはれ、我為り、  
ねふら小松の根よ、へい、干本さうゆ、くつむてささ  
あれやと、麦の根れ、かきり、く、夕まの、雪まら  
くも、風まら、く、衣まら、く、肌まら、く、あはれ、あはれ、  
かつら、あはれ、いさ、

反哥

あまほの野よ、小松よ、海雪の白髪つーも、年八、初れん



元日宴

まよわらう事ゆき位よ次くしきまのふ十代のまら  
白馬帝命

今よりこのつもまらあゆなそあねおのるめ約いせ  
賤弓

まよつふ法もたう一的形のうあうらう昔のね屋  
よよ歌

みれせらうまらあゆまの海りこてまのふ花下海らう  
まよまもまらあゆまの海りこてまのふ花下海らう  
昔の雪あつまらあゆまの海りこてまのふ花下海らう

雪あけ一あ田の小野のまらあゆまの海りこてまのふ花下海らう  
仇ちう花あゆまの海りこてまのふ花下海らう  
一ああて旅あゆまの海りこてまのふ花下海らう  
柳りまらあゆまの海りこてまのふ花下海らう

梅

は里へ梅の林うらあゆまの海りこてまのふ花下海らう  
江まわらう梅の長風香あゆまの海りこてまのふ花下海らう  
おがらう梅の本あゆまの海りこてまのふ花下海らう  
梅花香あゆまの海りこてまのふ花下海らう  
かつらう梅の衣あゆまの海りこてまのふ花下海らう



雪ふて昔の友をさひくれいよ一野の里は梅も雪うけわ  
果しわひいささようけにけふ梅も花風吹さう涼ささあ  
鶯のさうらうさう梅のわき立枝うれさく梅はさうつ花  
那う鶯の羽はれ風よあささく名残の枝も梅も残さるわ  
さささうてあささうのあささう梅もさうさうさう  
梅花零をささわの林よは里に出さうさうさうのあさ  
我忌の林は梅をささ人の涙うさうさうさうさうさう  
わうれさうさう新よゆさうさうさう立枝あささうのさのりれ梅  
梅花風よさう毎鶯れさうさうさうさうさうさうさう  
鶯

言家の野さうさう新よゆさうさうさうさうさうさうさう  
かろろののりゆさうさうさうの小松原さう梅も枝うらわさ  
宿さめさうさうさうさうさう鶯の梅れさうさうさう我もさうさ  
さうの野は鶯のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
鶯の枕のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
柳  
方寺れ門也さうさうさう古柳土さうさうさうさうさうさう  
九重もさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
一さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ  
紅梅



比叡の八重れく之垣枝くもく紅ちくも梅のさうわは  
二月也八重芳梅の紅くうくそ所さく野也のあくも  
春雨

こちをれけぬてん梅はゆきあひく木の芽もさめ今うは  
くふ幾日晴ぬあつちのさうめくあつちのさうめくあつち  
西くちくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち  
あつちのさうめくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち  
菴春雨

梅のさうめくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち  
あつちのさうめくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち

あつちのさうめくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち

五月

あつちのさうめくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち  
あつちのさうめくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち  
あつちのさうめくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち

梅花

あつちのさうめくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち  
あつちのさうめくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち  
あつちのさうめくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち

春日梅花

あつちのさうめくあつちのさうめくあつちのさうめくあつち







おろけとたひくくあぬれらうらぬ花のふゆみ  
舟うらて許りのち成接ふらんわしれおのちの本くれ  
長よかぬ逢ふく人よ花おのたよゆらあふおのち我

海月花

浪下此浦の磯山橋うらうら波うらうら立くやん  
風待てうらわらうらあ破およ号ちうらおの日数うら  
汐あけく生田れ杜の橋花おの千鳥もうらうらうら

雨中丸

おろけてうらあうらうら橋うらうらうらうらうら  
うらうら花うらうらうらうら夕(雨)うらうらうらうら

客来向吉野之花叶、谷山と圓山水最奇絶と  
多、其之處坂、此間、客人の絡繹、可謂清雅之矣。  
思夫上古飛鳥、孫原之世、春秋、厲行、業、美其山  
河之美、而臨水、營宮、雖見田獵、捕魚之術、極更  
無望、雪踏雪、撒、好古士、列于那、更、則、懐古、以  
永言也。又、向翁、嘗、咏、花、書、用、那、交、老、如、何、答、元、路  
詠、云、花、林、月、來、捕、其、地、以、補、風、姿、猶、之、生、旦、上、場、  
鐘、使、人、驚、異、出、漫、比、之、良、人、世、能、動、操、以、系、成、因  
淺、美、春、花、粉、飾、殊、子、遇、雨、忽、失、其、美、寫、那、處、山  
水、最、奇、絶、但、括、以、花、叶、者、俗、士、耳、今、為、道、以、數、之、云







反哥八首

芳野川と隈と水泡をよもあつ花を昔ら〜  
椈花うさそ流う〜  
白雲のあ〜  
夜ふ川をせな〜  
河ふの國栖の里人〜  
大隈さ〜  
夕陽林とさ〜  
高〜

乳吉野宮

名く〜  
ゆら〜  
さ河向う、志れ〜  
響の聲を〜  
漱くを〜  
林つ小野の〜  
うら〜

反哥

御船のた〜  
禁庭花



お里はあらぬ交書の橋花かのわのくよりうか光れ  
御座水花う流うく大交れ肉のしきいさうらさりわ  
花頂おのちりさうは信うあしき

さうて我るわいさうめん粟田の泡をうをハ橋也さわ  
お下お

石川のさうのたれ男花は持ひぬめさ人の業しう  
嵐山花 三きよ

きよいさゆきさうさうのささちわ波瀬さうけて花いさ  
大井川さうさうのさささうさうさうの波は花ちわうさ  
大堰河岸の橋れさうれて月よなわぬさ波のひうり

老木花

今年は揺る枝はさむしーく松をさなうさうのさしき

山寺花

昔城やさうれおの峯らさうさうさうさうさうさうさう  
あはさうさうて帰うさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

古墳花

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
純花

あめさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
はら











わらわらん 蓮花笑ふ 野はさき しのは 雉子 鳴りわ  
や雀

よのへいひらわの床と思ひ 一ひらわのついでに 暗の聲  
がら 夜のはつれあわ

よあしん 志野 ひとわ何 一まにひらわのわらわ 夜はあしん  
そよよ

夕の野は 枯草のまら 木の床より しのしき 花を 枝からん  
よあしん 志野 ひとわ何 一まにひらわのわらわ 夜はあしん

ゆらん  
かろう

夕まれの 蛾も 也 苑鳥 川瀬 一あむ 石のころひ 聲  
御躑躅花

みよの 一ひらわ 志野 ひとわ何 一まにひらわのわらわ 夜はあしん  
藤丸

神松よ 花れは 藤丸 ひとり あれん ひとわ 一ひらわのついでに  
よあしん 志野 ひとわ何 一まにひらわのわらわ 夜はあしん  
大原野の 春日の 社に 詣る ひとわ 一ひらわのついでに  
松よ ひとわ 一ひらわのついでに 夜はあしん  
の 何の らも ひとわ 一ひらわのついでに 夜はあしん  
ハ 神の本也 ひとり わらわ 一まにひらわのついでに 夜はあしん



江戸の御守り  
てなほ

おそろひの飛ハガ  
牡丹を人々

楊太妃一捺紅を

浅紅  
信美

花より人の心  
白  
布淋

めくも笑みたる

白帯紅  
黙軒

暁の薄紅を

深紅  
教儀

呉藍の色め

朱破紅  
益

ふかしの

同齋

あめのかほ







我神よのちをうたへし可き知花のれあつらふら  
郭よよしの溝をちせし一人のちをひかちのめれ  
友のあれ月あつて出ぬれおちさちち人味群  
旅よしよの可鳥や我をよのひて味いねおぬも  
高野の木の木立れほしけけ夕暮よあそねらふ  
可鳥をよの可群よふらふおのさしけけいんたの  
大岩木の柱よちりてさしとさしけけ鳥はさ  
極よしよの田のちよあてさしとさしけけ何よ  
花の枝れち葉立よしよの可鳥くもかろのさ  
さふれ八敷中よ晴て月よあそねらふのさ

言砂のよのさしとさしとさしとさしとさしとさしと  
信流の野よあし也杜詔友れあ野と名案てさ

夏子

伊吹のよのさしとさしとさしとさしとさしとさしと  
山里の垣かれひよあしけし田のよのさしとさしと  
それらてけや杜康のよのさしとさしとさしとさしと

あやん

ねのの長柄乃はれあめさしとさしとさしとさしと  
あやめぬく例いさしとさしとさしとさしとさしと

競馬



弱きる小神の世にまゝに人せ我の心なきのさきさきひ草  
棟花

されはとて法なきのされぬ清くはあち花笑定のくまに  
蚊や火

風もぬくもあつみの煙をひよあひてきりけりしと里れ中  
むれのもけらぬぬれぬきとまゝの相打ちもさきさき

五月雨

種波人ききおかけよこ〜舟はさき岸もぬく五月雨はさき  
さみれぬさきぬのさきぬれぬきぬれぬきぬれぬきぬれぬき  
凍るぬれぬきぬれぬきぬれぬきぬれぬきぬれぬきぬれぬき

子苗

又月雨を思ひのこゝろさきさき〜田のまゝ〜男と女のあや  
さきぬれぬきぬれぬきぬれぬきぬれぬきぬれぬきぬれぬき

夏月

松風のおと桐の音を越れぬ夜もぬれぬ月流りぬ  
夏はよき浅みせて花魚ぬれぬきぬれぬきぬれぬきぬれぬき

夏夜

夏はよきぬれぬきぬれぬきぬれぬきぬれぬきぬれぬきぬれぬき  
涼み

つゞふ千船のひよと漕出て夕涼とさき浪花人〜



水も流るゝ名もされ流成り夕へさゝ風も吹けり  
都を八束とあはせて朝日あけ風もさゝる流の流る

雲

芦花之葉もさゝる夕の流れてもほのみのゆき  
わらわの下吹風の冷やしてさゝる水も雲もひか  
び夕へ川やわきわき雲火の光もさゝる門の板は

原

のぬれハ楳花さゝる葉流れよやめハ次さゝひくさゝ  
つせこれちとわの松れ木をよめぬけれ衣の風もさ

照射

友山のさゝるさゝるわきわきさゝるさゝるさゝる  
青れさゝる月さゝるさゝるさゝるさゝるさゝる

扇

友のぬれさゝるさゝるさゝるさゝるさゝるさゝる

鶺鴒

水舟さゝる波もさゝるさゝるさゝるさゝるさゝる

西山夏草

夕もさゝる草もさゝるさゝるさゝるさゝるさゝる  
清水もさゝる

旅人のいゝ度ひてさゝる人衆のいゝ度乃わらわ















望月の影は涼くそ碎けとも先は海をわづらひて  
あゝ湖上の橋は静か

白き花の影をたててゆらゆらと秋の浦をさしひて

秋野

ありの家は空まのりて野は出れに花並なる秋の夕

花

朝の露をたてて花の影をたてて雨のあけは  
あゝ花の影をたてて花の影をたてて  
花の影の末は流あひて波もたれ野海の小川  
女郎花を植て、縁思遊をたて

あゝ植て人たぬるをたぬる一丸をたてて  
花の影をたてて花の影をたてて

花

一日てふも花と花の影をたてて

花

花の影をたてて花の影をたてて  
あゝ花の影をたてて花の影をたてて

鴨

あゝ花の影をたてて花の影をたてて  
あゝ花の影をたてて花の影をたてて

花







よめて、  
此緑思と、  
是指  
あひらつて、  
ほり、  
秋風  
みづれ

新霧の油、  
れは、  
河由の國、  
侏狛根、  
河由、  
我と、  
月  
我、  
千里



秋の月あふそよも河のそよも葉は林さうらう  
 色のうきき昔はあふ月さうら秋と盡かて涙もあ  
 かりや秋てふ秋の聲は月影さうらあうて  
 ひとくお濁つた秋は秋の月を賑ひさうらあのみて  
 六月

峯月

ねむりぬれは此られさあふ月影てあうあう  
 志望の海

田家月

ことのれさ里のわらうあふ月影は指さし  
 門掩ひて

秋郷月

ほともがうらわあけはもさのあふあう  
 月影

秋夜遊墨江奇

よきもあは練のふもこの翅あう漕う  
 船ゆきよと  
 つ大和島根れあ柳のかつらあふせ生駒峯もあわ  
 せハ秋風よ吹りてひて月影の出さうらあハ  
 霧の立ち昇らぬ位のはあ津またてハあうひく  
 入日さうらひよゆられハ細川鑑ひく磯田よハ小船釣  
 とら秋の葉は風はうれは岸はあら松原も  
 浪よねあうさあ白鷺あぬさうらあはのふあう















まのりかゝるあらしを〜夏野はひわねをたぬとたむじやう  
霧のこや獨月さるる意のあよそのつれ床る氣もあふれ  
たふらよおひ〜句

紅葉

りみち葉をさめつ〜くらと野の男席の床は我もあはれ  
おろくめて霜の野はさるわんせ〜林よおぼろもさつ〜  
ちるお里の中は秋ゆき〜さるる〜わにけりあふれ〜  
とめ〜〜さるる〜さるる〜さるる〜の床のひら  
た重れ秋はさるるあふれ〜葉が〜〜さるる〜人  
庭の雨はたれてたふさおろのあはれさるる〜おぼろ紅葉

荒乳の園はのふれり〜ち葉はさるる〜河あふれさるる〜  
たわらさの森は下は河あふれ〜おぼろあふれ〜さるる〜  
お里は稲はさるる〜門む〜河あふれ〜さるる〜葉はさるる〜

接(眞面)の歌

神代わりのひさけら〜〜ち地の始乃河の持たしてちあ  
つ〜のあ〜ま〜さ〜ら〜〜のあ〜と〜雨〜あ〜のあ〜のあ  
谷間ゆ〜はさか〜田〜美柳は枝は取〜ひ〜鏡は  
う〜ひもさあわびよ〜さるる〜神は〜の〜魂〜さるる〜や  
さるる〜あま〜さるる〜あま〜さるる〜あま〜さるる〜  
〜さるるの原はさるる〜あま〜さるる〜の原はさるる〜







